

「ジョブ・シャドウ」

人がしている仕事を見るのではなく、仕事をしている人を見る

ジュニア・アチーブメント日本と東京都教育委員会の取組
(以下「JA日本」とする。)

7月27日(金)に、自ら応募した31校の都立高校生、約100名が、三菱フィナンシャル・グループ本社・銀行・信託・証券4社の協力を得て、「ジョブ・シャドウ」に参加しました。「ジョブ・シャドウ」は、ジュニア・アチーブメントが開発したキャリア教育プログラムの一つで、生徒一人が企業の一人の社員に数時間「影」のごとくついてまわり、社員が仕事をする姿を通して会議の熱気や緊張感を感じ、一部の仕事を手伝いながら、仕事の厳しさを肌身で体験するものです。「仕事に打ち込む人の姿」を身近で観察する機会を得て、やがて訪れる進路選択・将来設計・職業選択に資することを目的としています。

このプログラムのここがポイント!

「ジョブ・シャドウ」

都立高校生たちは、7月23日(月)に行われた事前研修を経て、「ジョブ・シャドウ」当日を迎えました。事前研修時には今どきの高校生らしい?姿の生徒もいましたが、当日は社会人として働くことを意識しているのか、東京丸の内に8時半に全員がピシッとした服装で集まってきました。



受付を済ませ全員揃って会場に入ると、社員の皆さんが温かい拍手で迎え入れてくれました。それぞれが今日一日お世話になる社員の隣に座り、早速名刺をいただき挨拶を交わします。緊張で顔がこわばってしまっている生徒も多かったのですが、社員さんが積極的に話しかけてくださり、徐々に笑顔の輪が広がっていきました。開会式の中では、各社の幹部から激励を受け、生徒達の表情も引き締まっていきます。

開会式が終わると、早速「ジョブ・シャドウ」開始です。社員の方の後ろに影のごとくついて、それぞれの職場へと移動します。

社員のみなさん方が真剣な表情で次々業務をこなしていくのを目の当たりにして、呆然としている生徒や遅れまいとして必死についていこうとする生徒の姿が見られました。その業務内容は、重役の秘書、株式の売買、投資家説明会企画、顧客へのコンサルティング等々、多種多様です。中には、上司へ事



業を説明する際に同席したり、業務上のメール文章作成を手伝ったりした生徒もいました。3時間に及ぶ「ジョブ・シャドウ」を経験する中で、人が仕事を動かしている、人が会社を動かしていることを肌で感じた様子です。



お昼は、社員さんと一緒に隣り合って食事をします。「ジョブ・シャドウ」を終えた安堵感からか、緊張から解放されたからなのか、生徒達の表情が明るくなっていました。社員さんとの会話もスムーズに進んでいきます。談笑する姿があちこちで見られました。

パネルディスカッション

食事の後は、若手社員によるパネルディスカッションが開催されました。パネリストには、協力企業4社から代表が1名ずつ参加され、「会社は動いてはいない。動かしているのは人です。



一人一人が役割分担に応じて、力を発揮して会社を動かしているのです。だから、どのように仕事をするかが大切なのです。」「失敗することもあります。落ち込むこともあります。不安なこともあります。でも、やるべきことをきちんとやっていたら、不安は少なくなるはずですよ。」「仕事に性別は関係なく、一個人として意見が言えることが大切です。」「など、貴重な御意見を伺うことができました。それらは、どれも将来働くことに対して抱きがちな、漠然とした不安を和らげてくれるものでした。生徒たちの話を聞く態度も真剣で、自分の将来に対する意識の高さが伝わってきました。

修了式

修了式の最後は、生徒代表が感謝の言葉を発表しました。「ジョブ・シャドウ」に当たり私達のために時間を割いていただいたことへのお礼や、今日の経験を今後どのように生かしていきたいかの抱負などを、自分の言葉で落ち着いて堂々と話す姿は立派でした。



生徒を代表して修了証をもらう都立高校生



生徒代表でお礼の言葉を述べる都立高校生